

「企業」、「会津大学」、「若松一高」がコラボレーション!!!

ガソリン車を電気自動車に改造する試みが会津若松市内で動き出しました。

会津若松市内企業の「(有)オートパーツアマルク」と「会津大学」そして我校「若松一高」が連携し安価なエコモーターの改造技術研究に入る。

会津大学はコンピューター制御システムを開発。

我校は電池部門。ソーラーカー全国大会多数の優勝経験などからデータが豊富に蓄積されているため、それを基に改良し支援することとなりました。

平成23年 2月 2日 福島民報

ガソリン車を電気自動車に改造する試みが県内で動き出した。会津若松市の自動車解体リサイクル業者は春から改造の請負を始める。さらに、会津大、若松一高と連携し

県内業者 本格始動

て本県オリジナルの改造技術研究に入る。浪江町の廃車買取業者はすでに電気自動車の試作品を造った。比較的安価で改造でき、エコを実践する取り組みとして注目を集め

電気自動車 身近に

改造はエンジンやガソリンタンクを外し、代わりにモーターとバッテリーなどを載せる。家庭用コンセントで充電し、最新のリチウム電池を使えば一度の充電で約百キロの走行が可能。車検を通せば公道を走れる。エコカー需要の高まりを受け、改造事業はここ数年で全国に広がっている。会津若松市の自動車解体リサイクル業、オートパーツアマルクは新潟県の企業から技術指導を受け、事業に乗り出した。今月下旬に試作車を完成させ、三月末に試乗会を開く。

浪江町の廃車買取業者、ナプロフクシマは廃車と中古パーツを利用して電気自動車の試作車を完成させた。最高速80キロ、費用100万円

浪江町の業者が改造した電気自動車のホンネ。エンジンなどが取り外され、モーターが搭載されている

四月に受注を開始する計画だ。自動車を持ち込んだ場合、料金は百五十万円以下の予定で、新車で購入する場合は半額以下という。さらに同社は会津若松市の会津大と若松一高のバックアップを受け、性能の向上を目指す。会津大には走行距離アップのため、コンピューター制御システムの開発を依頼する。浪江町はソーラーカーの全国大会などで好成績を収めている若松一高の支援を受け、同校が蓄積してきたデータを基に改良する。

浪江で試作品

作品を二月下旬に完成させた。改造車や改造キットの販売、改造代行の事業化を目指す。車体は軽自動車、十二時間の鉛バッテリー八個を搭載した。家庭用電源で七、十二時間充電すると、時速四十キロで約六十キロ走るという。最高速は時速約八十キロ。百万円前後で改造できるという。

同社は「廃車には抵抗感のある乗車を再利用できる。環境にやさしい事業として大きな可能性を秘めている」としている。



(有)オートパーツアマルクにて、
「コンバートEV車の講習勉強会
及び試作車製作実施」
日程：平成23年2月20日～23日
場所：(有)オートパーツアマルク

本校では2学年自動車科の生徒が21日参加する予定です。
生徒たちは現物の改造に立ち合うわけです。

もともと車好きな生徒たちですから、勉強になるに違いありません。